

# キャッチアップ接種について

【平成9年度生まれ～平成19年度生まれ】までの女性へ

## HPVワクチンの接種を逃した方に 接種の機会をご提供します

公費による接種は

**2024年度末（2025年3月末）まで**

接種は合計3回で、完了するまでに約6か月間かかるため、  
接種を希望する方は、お早めの接種をご検討ください。

ワクチン接種開始時期のタイムリミットが、今年の9月になります！

これ以降での接種費用は、3回で約10万円です。ご注意ください。

# 対象となる方々について

次の2つを満たす方が、あらためて接種の機会をご提供する対象となります。

- ① 平成9年度生まれ～平成19年度生まれの女性  
※誕生日が平成9年(1997年)4月2日～平成20年(2008年)4月1日
  
- ② 過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない

# 子宮頸がんで苦しまないために

できることが2つあります。HPVワクチンを受けた方も、検診をお忘れなく！

① HPVワクチン ⇒ HPVの感染を予防します

② 子宮頸がん検診 ⇒ がんを早期発見し治療します  
20歳以上の方は、定期的に受診を

- ワクチンで防げないHPV感染もあるため、子宮頸がん検診を定期的に受診することが大切です。
- HPV感染は主に性的接触により起こります。  
パートナーと共に性感染症の予防も忘れずに。

# HPVワクチンの効果とリスク

- サーバリックス®およびガーダシル®は、子宮頸がんをおこしやすい種類（型）である**HPV16型**と**18型**の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の**50～70%**を防ぎます。シルガード®9は、**HPV16型**と**18型**に加え、ほかの**5種類**のHPV感染も防いだ子宮頸がんの病因の**80～90%**を防ぎます。
- HPVワクチン接種後には、接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれに、重いアレルギー症状や神経系の症状が起こることがあります。また、広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまう）といった多様な症状が報告されています。

# 定期接種の対象年齢（高校1年生相当まで）を過ぎても、 接種の効果はありますか？

- 16歳頃までに接種するのが最も効果が高いですが、それ以上の年齢で接種しても、ある程度の有効性があることが、国内外の研究で示されています。
- なお、定期接種の対象年齢を過ぎてからの接種について、明らかな安全性の懸念は示されていません。